［優秀賞］

「夢と現実～ジョバンニの島を見て～」

奥尻町立奥尻中学校
１年　手塚　迪

夢と現実は、こうもちがうものでしょうか。

じゅんぺいとかんたがいつも見ていた銀河鉄道の夜の夢はキラキラしていて、美しいものでした。ソ連の女の子ターニャと仲良くなったきっかけも、たくさんのびんやお皿を並べておもちゃの汽車を走らせつなげたからでした。このときは、夢ではなく現実世界がキラキラしていました。

口で言うほど簡単ではないことは分かっています。しかし、私がこの映画を見て強く感じたことは、ロシア人と日本人の共存です。元々日本の領土であったことは間違いないけど、もちろん何十年も前に占領されたなら、何も知らないロシア人の赤ちゃんも生まれているはずです。自分がうまれた故郷なのに、“出ていけ”“日本に返せ”なんて言われたらたまったもんじゃない。怒るはずです。それなら、この映画の子どもたちのように国境を消して、共存していくことは不可能なのでしょうか。領土はどちらの国のものと決めなくてはならないとか、領空、領海がどうとかなんて私には分かりませんが、共存、一緒に生きていくことは、少なからず可能だと思うのです。今、日本にはたくさんの外国人が住んでいます。外国の人が日本に、日本人が外国に住み共存している世の中で、ロシアと日本だけができないなんてことはないはずです。じゅんぺいたちとターニャやその友達も、歌や遊びで仲良くなり、互いが互いのことを知り、ロシア語と日本語という言葉の壁も壊しました。

ああ、キレイだなぁ。ロシアの正月明け、かんたが亡くなった日。銀河鉄道に乗っているのかなぁ。その日、小さな窓から見える星空は、夢のように美しいものでした。どこまでもどこまでも、兄ちゃんと一緒に進んでいくんだろう。魔法の切符で旅に出るんだろう。

夢の中では、美しい永遠に続く星空をみんなで銀河鉄道に乗っていました。かんたは最後にお父さんに会え、全ての力を幸せに使い切ったような気がしました。現実は銀河鉄道のようにキラキラしていません。人が人を殺し、小さな事で争いを起こし、全てに勝敗をつける。引き分けだって良いじゃないですか。皆が笑えれば良いじゃないですか。生きていれば・・・。

物語現実。当たり前に違う二つ。それはつながらないものでも、夢を見るくらい良いと思うのです。日がのぼり、しずみ、暗闇の中見上げれば星がある。そんな生活を、世界で、どんな国の人とも、どこででも、できれば良いと思うのです。